

## 情報 ひがし労

JR東労働組合 中央本部

発行人 松下 明

編集者 情宣部

# 各地で大雨被害が多発!

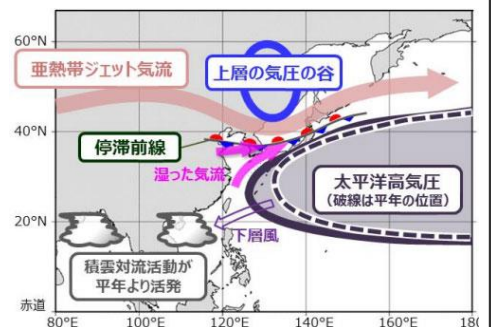
～自分の命は自分で守る!～

7月中旬から8月中旬にかけては、北日本などで記録的な大雨が発生しました。7月中旬には、北～西日本で短時間に記録的な降水量を観測する大雨が各地に発生したほか、8月3日～4日には線状降水帯も発生し、各地で土砂災害や河川の氾濫などの被害が発生しました。新潟県関川村では1時間に149ミリ、24時間で560ミリの観測史上1位の値を更新。また、8月上旬末から中旬にかけては北日本付近に前線が停滞し続け、青森県で8月8日～14日の総降水量が400ミリを越えるなど東北北部を中心に記録的な大雨となりました。



冠水被害を受けた新潟県関川村  
(©朝日新聞8月4日より)

気象庁は、このうち7月中旬の大雨については、日本の北方で形成された「**ブロッキング高気圧**」の南側に当たる日本付近の上空で、寒気を伴った気圧の谷が持続して大気の状態が不安定になったことが一因と分析、偏西風の蛇行がこの気圧の谷の持続に影響したと指摘しました。



8月上旬～中旬の大気の流れの模式図  
(気象庁資料より)

また、8月上旬末～中旬前半の北日本の記録的な大雨については、太平洋高気圧の縁に沿った水蒸気の流入と、前線に沿った水蒸気の流入が合流する状況が持続していたと分析し、亜熱帯ジェット気流の蛇行や、太平洋高気圧の勢力が平年より強い状態であったことが影響していたと指摘し、上層の気圧の谷の影響もあって前線周辺で降水活動が強化されたことも大雨の一因と考えられるなどとなりました。

長期的に極端な大雨の強さが増大する傾向が見られているとして、気象庁はその要因について、「**地球温暖化による気温の長期的な上昇傾向に伴い、大気中の水蒸気量も長期的に増加傾向にあることが考えられる**」として、地球温暖化の影響にも言及しました。

北日本などに記録的な大雨をもたらした原因の1つとされる**偏西風の蛇行**は、現在も継続しているとされています。太平洋高気圧の張り出しは弱まわってきているものの、各地で冠水などの被害が出ており、引き続き大雨への備えが必要です。

## 深刻な住宅被害が発生している風水害 自然災害に備えよう!



浸水による  
家財の被害



窓ガラスの  
破損

台風

大雨

地震

洪水

火災

落雷

こみん共済〈全労済〉 **住まいる共済**

資料請求や詳しい保障内容の問い合わせ等は

JRひがし労総務部小林

Tel.027-329-5836 または

Tel.080-7943-8174 まで